

日本シーム株式会社

廃プラ再生の機械を製造、環境問題の解決に貢献

— 評価制度の刷新で開発力のさらなる強化へ

記者の目



- ▶ 距離の近さが社員のコミュニケーションを促進
- ▶ 21年度には人事評価の新システムを導入

ペットボトルや家電製品など、さまざまな製品に使われているプラスチック。プラスチックによる海の汚染が国際的な問題となる中、廃プラスチックを再生利用するための機械を開発、製造、そして販売し、プラスチックの廃棄削減に貢献しているのが日本シームだ。木口達也社長は、「新たな制度を取り入れながら、ニッチトップの企業として一点に集中した技術を磨いていく」と意気込む。

廃プラが再生材料に生まれ変わるためには、複数の工程を経る必要がある。樹脂の粉碎、洗浄、脱水、選別などだ。同社は各工程で使用する粉碎機や選別機を単体で販売するほか、いくつかの機械を組み合わせたプラントシステムの設計・施工も行う。

プラントシステムを設計・施工する際には、例えばペットボトルなどの廃棄物の場合、ベルトコン

ベヤへの投入から粉碎、洗浄そして樹脂を選別する比重選別までを一括して提案する。また、ベアリングの交換といった納入後のメンテナンスも担う。

2020年4月には新社屋を建設し、本社の1階に展示室を開設。小型機を中心に用意し、顧客からのテスト依頼に応じられる環境を整備した。2階には通路があり、窓から1階の様子を見ることができ、見学スペースとなっている。

3階には事務所を設置し、中央にはミーティングスペースを設けた。部門を仕切る板はガラス製で、圧迫感を感じさせない。軽快な音楽が流れる中、営業や設計、そして管理部門の社員が働く。

開発力で市場ニーズに応える

「開発力が会社の強み」と木口社長。会社の一体感が強みを支える。自社で設計から販売までを手がけるため、顧客の要望に迅速に対応できる。さらに、本社と同じ敷地内に工場があるため、異なる部門の社員でも距離感がなく、意思疎通がしやすいという。

週に1回は全体会議を開き、積極的に社員と情報を共有する。同会議は「GUN GUN プロジェクト」と呼ばれる。全社員が出席し、前週に起きた問題などを話し合う。会議では社長自らが発表をすることもある。例えば、コミュニケーションの質を高めることが技術の向上につながるとし、社内ルール

の変更を社員に説明したという。

また木口社長は、「新たな挑戦」の継続を重要視する。「市場のニーズを満たすには、新しい製品が常に求められている」（木口社長）とし、「世の中の流れに対応している」（同）と話す。

新たな挑戦の例として、大学や他の企業などと連携して開発した水流選別機が挙げられる。同製品は重液を使わずに、水流で廃プラを選別できる。例えば、汎用ポリプロピレン（PP）やポリエチレンテレフタレート（PET）などを分けられる。すでにリサイクル業者に納入した実績がある。

制度を見直し、開発型企業へ

同社は、評価制度の見直しを進めている。2021年度には新しい人事評価システムを導入する予定だ。「人間の意識構造学を基本にしたマネジメントシステムを導入する」と木口社長は説明する。

導入の理由は、「開発力」のさらなる強化だ。業務を効率化し削減できた時間を、同社の強みである製品開発に充てる考えだ。さらに、社員の目標や評価基準を明確にすることで、能力を最大限に生かす仕組みを整える。

人材育成の取り組みとして、資格の取得に要する費用の全額補助を実施。さらに有給休暇を使わずに、就業時間内に資格取得のための講習を受講できるよう配慮している。また、外部セミナーへの参



工場内で選別機の性能試験を行う様子



3階事務所にはミーティングスペースを確保した



本社にはテスト環境を整備した展示室を備える

加も促している。2018年に入社した瀬野尾高弘さんは、3次元CADを勉強するため、セミナーに出席した経験があるという。

新入社員に対しては「伴走型」の教育を行っている。安全教育な

どの研修を受けた後は、新入社員が所属する部門の先輩社員とともに、年間50～60件程度の顧客からの依頼を引き受けていく。

求める人材像として木口社長は、「世にないモノを製造したい

意欲がある人材や、環境問題の解決に貢献したい人材がほしい」と話す。

世の中の環境問題への意識向上とともに、同社の存在感もより一層高まりそうだ。

理系出身の若手社員に聞く

粉碎機や洗浄脱水機などの性能向上に貢献したい

設計技術部 瀬野尾 高弘さん（2018年入社）

製薬企業向けの機械メーカーで設計業務をしていましたが、当社に転職しました。入社後2～3カ月の間は社内のテスト用機械の設計に携わり、現在は主に、洗浄脱水機のモデルチェンジを担当しています。機械の隙間から水が漏れるのを防ぐ目的で設計を変更するのですが、苦勞しました。

工場が本社の近くにあるため、何か間違いがあった場合、製造現場からすぐに反応があります。現場の声は自身の技術向上につながるため、この環境はありがたいです。また、社員が自由に話し合える雰囲気があり、当社の魅力の一つだと思います。今後も、粉碎機や洗浄脱水機などの性能向上に貢献していきたいです。



代表取締役
木口 達也さん

会社DATA

本社所在地：埼玉県川口市安行北谷665
 設立：1979年5月
 代表者：代表取締役 木口 達也
 資本金：8304万円
 従業員数：40名（2020年11月）
 事業内容：粉碎機、洗浄脱水機、各種選別装置、乾燥機、ミキサー、搬送装置、切断機、プラスチック類リサイクルプラント施工、関連機械製造販売
 U R L：https://www.nihon-cim.co.jp/

